

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東日本航空専門学校
設置者名	学校法人日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	航空機整備科 (二等航空運航整備士コース)	夜・通信	2386 単位時間	240 単位時間	
	航空機整備科 (航空機整備訓練コース)	夜・通信	1961 単位時間	240 単位時間	
工業専門課程	エアポートビジネス科	夜・通信	880 単位時間	160 単位時間	
工業専門課程	空港エンジニア科	夜・通信	1355 単位時間	160 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

航空機整備科	(http://www.ejair.ac.jp/cmn/pdf/jitumu_2019_m.pdf)
エアポートビジネス科	(http://www.ejair.ac.jp/cmn/pdf/jitumu_2019_c.pdf)
空港エンジニア科	(http://www.ejair.ac.jp/cmn/pdf/jitumu_2019_e.pdf)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東日本航空専門学校
設置者名	学校法人日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開 http://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijimeibo_2019.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【前職】NEC東芝情報システム(株)相談役	2017.9.28 ～2019.9.27	渉外担当
非常勤	【現職】(株)JC-21教育センター 取締役	2017.9.28 ～2019.9.27	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	2017.9.28 ～2019.9.27	コンプライアンス 担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	2017.9.28 ～2019.9.27	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東日本航空専門学校
設置者名	学校法人日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>							
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教育課程編成委員会、企業との連携及び学生アンケート等の意見を踏まえ、学科教員会議の中で、企業ニーズを考慮しシラバスの作成を行なっている。 また、年末の教員会議の中で科目の授業時数の変更を検討し、年度末の評議員会、理事会にかけ審議している。</p> <p>次年度のシラバスの公表は、年度初め始業日までに公表する。</p>							
授業計画書の公表方法	<table border="0"> <tr> <td>航空機整備科</td> <td>http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_m.pdf</td> </tr> <tr> <td>エアポートビジネス科</td> <td>http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_c.pdf</td> </tr> <tr> <td>空港エンジニア科</td> <td>http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_e.pdf</td> </tr> </table>	航空機整備科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_m.pdf	エアポートビジネス科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_c.pdf	空港エンジニア科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_e.pdf
航空機整備科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_m.pdf						
エアポートビジネス科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_c.pdf						
空港エンジニア科	http://www.ejair.ac.jp/cmnn/pdf/syllabus_2019_e.pdf						
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>							
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>年4回の定期試験(前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験)を実施し、成績評価している。 評価基準：講義科目は成績点の80%及び平常点20%との合計での総合評価。 実技科目は5段階評価(技量、課題制作品の評価、実習態度) 研修科目、卒業課題はレポート提出による5段階評価 履修上の注意：授業時数の2/3以上の出席が必修。但し、航空機整備科の専門科目は、全授業時数の出席が必修となる。</p>							

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>年次ごとに一般科目、専門科目の5段階評価に基づき科目別評価統計を作成している。</p> <p>個人がどのレベルにあるのか、到達すべき目標を認識し学習すべき科目が理解できるように評価目標値、平均値および学年総合評価平均値を公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.ejair.ac.jp/cmnm/pdf/gpa_2019.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育理念及び目標に基づき業界に関する高度な知識技能を習得させ即戦力となる人材、併せて豊かな人間性をもった職業人として、成長しているか評価を通じて行う。</p> <p>認定基準を教務内規に定め運用している。学生のしおりを作成し、学生及び保護者に配布している。また、当該しおりは本校独自の電子書庫にアップし、学生がiPadで常時閲覧可能である。</p> <p>卒業認定は卒業式の学年末に卒業認定会議で審議の上、学校長が認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>http://www.ejair.ac.jp/cmnm/pdf/sotsugyo_2019.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東日本航空専門学校
設置者名	学校法人日本コンピュータ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2018.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2018.pdf
財産目録	https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2018.pdf
事業報告書	https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2018.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2018.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	航空機整備科 1年は共通2.3年は専門コース (二等航空運航整備士コース)	平成7年文科 省 告示第7号	-			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2950 単位時間/単位	1464 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1486 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間/ 単位
		単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
1年次66人 2・3年次60人	1年生21人 2.3年生27人	1年生3人 2.3年生0人	10人	3人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 年2期に分け講義及び実習を実施 授業計画：1年次及び2年次1,000時限、3年次950時限。3年間2,950時限
成績評価の基準・方法
（概要） 講義科目は定期試験年4回（前期-中間・期末試験、後期-中間・期末試験） を実施し、定期試験の成績点の80%及び平常点20%の合計で総合評価する。 実技科目は、教科名又は教育内容の終了前に実技の修得状況を5段階評価する。 尚、専門科目は授業時数の100%。一般科目は2/3以上の出席時数が必須。
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 履修すべき全学科の評定（評価2以上）が、各学期合格していること。 2. 年800時限及び3年間で2400時限以上履修していること

学修支援等			
(概要) 授業時数の不足又は評価が満さない場合は補習の上追試、再試験を実施する。			
卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
平成 30 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 航空運送事業、航空運航整備、航空機整備・修理			
(就職指導内容) 就職課が窓口となり、担任と連携して本人の意向を踏まえて、就職指導をしている。 また、就職活動支援として、数多くの企業説明会を校内で開催、企業の概要及び求める人材等を周知させている。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 二等航空運航整備士、航空無線通信士、航空特殊無線技士、 危険物取扱者 (乙 4 類)、英検 (二級、準二級)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 年生 20 人 2・3 年生 8 人	1 年生 1 人 2・3 年生 0 人	3.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室と連携し、経済面も含めた支援制度等の説明を含めて、 本人及び保護者との面談を実施。		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	航空機整備科 1 年は共通 2. 3 年は専門コース (航空機整備訓練コース)	平成 7 年文科省 告示第 7 号	-			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2950 単位時間/単位	1964 単位時間 /単位	単位時間 /単位	986 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
1 年次 66 人 2. 3 年次 72 人	1 年生 21 人 2. 3 年生 14 人	1 年生 3 人 2. 3 年生 0 人	10 人	3 人	13 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 年2期に分け講義及び実習を実施 授業計画：1年次及び2年次1,000時限、3年次950時限。3年間2,950時限			
成績評価の基準・方法			
（概要） 講義科目は定期試験年4回（前期-中間・期末試験、後期-中間・期末試験）を実施し、定期試験の成績点の80%及び平常点20%の合計で総合評価する。実技科目は、教科名又は教育内容の終了前に実技の修得状況を5段階評価する。尚、専門科目は授業時数の100%。一般科目は2/3以上の出席時数が必須。			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 1. 履修すべき全学科の評定（評価2以上）が、各学期合格していること。 2. 年800時限及び3年間で2400時限以上履修していること			
学修支援等			
（概要） 授業時数の不足又は評価が満さない場合は補習の上追試、再試験を実施する。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
平成30年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空機点検整備、航空機部品製造、修理			
（就職指導内容） 就職課が窓口となり、担任と連携して本人の意向を踏まえて、就職指導をしている。また、就職活動支援として、数多くの企業説明会を校内で開催、企業の概要及び求める人材等を周知させている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 整備経歴、英検（準二級、3級）、危険物取扱（乙4種）、アーク溶接、粉じん及び砥石取り替え特別教育修了。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1年生20人 2.3年生7人	1年生1人 2.3年生0人	3.7%
（中途退学の主な理由）進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任及び学生サポート室と連携し、経済面も含めた支援制度等の説明を含めて、本人及び保護者との面談を実施。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	エアポートビジネス科	平成 13 年文科省 告示第 24 号	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1950 単位時間／単位	1480 単位時間 /単位	単位時間 /単位	470 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		48 人	0 人	3 人	8 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 期に分け講義及び実習で実施 授業計画：1 年次 1,025 時限及び 2 年次 925 時限。2 年間 1950 時限</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義科目は定期試験年 4 回（前期-中間・期末試験、後期-中間・期末試験） を実施し、定期試験の成績点の 80% 及び平常点 20% の合計で総合評価する。 実技科目は、教科名又は教育内容の終了前に実技の修得状況を 5 段階評価する。 尚、各科目の授業時数の 2/3 以上の出席時数が必須。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 履修すべき全学科の評定（評価 2 以上）が、各学期合格していること。 2. 1 年次年 900 時間以上、2 年次 800 時間以上及び 2 年間で 1700 時間以上履修 していること。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>授業時数の不足又は評価が満さない場合は補習の上追試、再試験を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
平成 30 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>旅客業務（グラウンドスタッフ）、航空貨物（事務、通関）</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>就職課が窓口となり、担任と連携して本人の意向を踏まえて、就職指導をしている。 また、就職活動支援として、数多くの企業説明会を校内で開催、企業の概要 及び求める人材等を周知させている。</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 英検(2級、準2級)、TOEICテスト、アクセス検定、地理検定、航空特殊無線技士
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室と連携し、経済面も含めた支援制度等の説明を含めて、本人及び保護者との面談を実施。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	空港エンジニア科	平成17年文科省 告示第176号	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1950 単位時間/単位	1330 単位時間 /単位	単位時間 /単位	620 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		59人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 年2期に分け講義及び実習で実施 授業計画: 1年次 1,025 時限及び2年次 925 時限。2年間 1950 時限
成績評価の基準・方法
(概要) 講義科目は定期試験年4回(前期-中間・期末試験、後期-中間・期末試験)を実施し、定期試験の成績点の80%及び平常点20%の合計で総合評価する。 実技科目は、教科名又は教育内容の終了前に実技の修得状況を5段階評価する。 尚、各科目の授業時数の2/3以上の出席時数が必須。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 履修すべき全学科の評定(評価2以上)が、各学期合格していること。 2. 1年次年900時間以上、2年次800時間以上及び2年間で1700時間以上履修していること

学修支援等			
(概要) 授業時数の不足又は評価が満さない場合は補習の上追試、再試験を実施する。			
卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
平成 30 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) グランドハンドリング (航空貨物、航空貨物事務、機側支援)、航空機給油			
(就職指導内容) 就職課が窓口となり、担任と連携して本人の意向を踏まえて、就職指導をしている。また、就職活動支援として、数多くの企業説明会を校内で開催、企業の概要及び求める人材等を周知させている。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 大型特殊、牽引自動車、フォークリフト技能、高所作業者、陸上特殊無線技士、第二陸上無線技士、危険物取扱 (乙 4 類)、英検 (準 2 級、3 級)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58 人	1 人	1.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室と連携し、経済面も含めた支援制度等の説明を含めて、本人及び保護者との面談を実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
航空機整備科	100,000 円	636,000 円	416,000 円	施設実習費
エアポートビジネス科	100,000 円	540,000 円	226,000 円	”
空港エンジニア科	100,000 円	600,000 円	346,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>下記就学支援は入学時のみ適用</p> <p>特別奨学金制度 経済的理由で進学が困難と認められる者で、進学目的がはっきりしており、本校学生として相応しいと認められる者を書類選考により免除 (若干名) 特別奨学生A…30 万円免除 特別奨学生B…20 万円免除</p> <p>試験特待生制度 試本校独自の学力試験の結果により免除 (10 名程度) 試験特待生A…40 万円 試験特待生B…30 万円 試験特待生C…20 万円 試験特待生D…10 万円</p> <p>資格特待生制度 入学時に本校基準資格を取得している者 資格特待生A…30 万円 資格特待生A…20 万円 資格特待生A…10 万円</p> <p>親族入学制度 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在校生の場合、5 万円免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ejair.ac.jp/cmn/pdf/h29_evaluation_1.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>本学園は、設置する各学校が実施した自己評価の評価結果について、客観的・透明性を高めると共に関係業界との連携協力による学校運営の改善を図ため、卒業生、業界関係者等を委員とし、評価を行う。委員会は、学科の教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導性について重点的に評価する。その評価結果、今後の改善等について取りまとめ広く公表する。教育活動そのた学校運営の継続的な改善を行い、学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。</p> <p>年度月上旬に年 1 回開催する。</p>

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校法人日本コンピュータ学園 卒業生	2018. 4. 1～ 2020. 3. 31	卒業生
日本通運株式会社 東北総代理支店 次長	2019. 4. 1～ 2021. 3. 31	企業等委員
株式会社パンフック 係長	2018. 4. 1～ 2020. 3. 31	企業等委員 卒業生
株式会社ジャムコ航空機整備事業部 教育訓練室 室長	2019. 4. 1～ 2021. 3. 31	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ejair.ac.jp/cmn/pdf/h29_evaluation_2.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ejair.ac.jp/
--